

令和4年度 第1回広島市感染症対策協議会

- 【日時】 令和4年4月19日（月）19:00～20:00
【場所】 広島市役所14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、
新甲 さなえ、堂面 政俊、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、南 心司

1 感染症に関する最近の情報

(1) 新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料1 P1～11）

広島県の感染状況については、横ばいから増加傾向に転じている。年代別では10代、20代は高止まりしており、30代、40代、60代以上が増加している。推定感染経路については、家庭内が最も多い状況である。本市においても、感染状況は増加に転じており、4月15日発表の新規感染者数は631人となっている。

変異株について、国内ではBA.2系統への置き換わりが進んでおり、本市では、4月13日に陽性例が1例確認された。

人の動きが活発となる時期に感染拡大が起きており、今後GWをむかえるため、感染動向に注意が必要である。

（委員意見）

- ・ 市民に対して引き続き感染予防策等の啓発を行うとともに、GWの人の動きを注視してほしい

(2) 新型コロナウイルスワクチン接種について（資料1 P12～32）

ア 接種率

本市における新型コロナウイルスワクチン接種状況は、4月15日時点で1回目の接種率が76.1%、2回目の接種率が75.5%、3回目の接種率が43.8%となった。3月5日から開始した5歳～11歳の子ども（小児）への接種については、1回目7.6%、2回目3.1%となった。

イ 小児集団接種の実施について

平日の医療機関での接種が困難な小児への接種の機会を確保するため、4月17日（日）に広島マリーナホップにおいて、小児集団接種を実施した（予約者数90/90）。会場では、保護者と小児が一緒に歩くことのできる通路幅を確保するとともに、予診前の待機場所では風景動画を流すことにより小児の接種前の緊張をやわらげるなどの様々な工夫を行った。

なお、5月8日（日）に2回目の接種を行う予定としている（予約者数75/90）

ウ 4回目接種について

4月15日現在、国は、4回目の接種について具体的なスケジュール等を示していないが、本市では、3月25日付けの国の事務連絡に基づき、4回目の接種に向けて会場の確保等の準備を行っている。

（委員意見）

- ・ 3回目接種の接種率向上に向けて、接種の促進に努めてほしい

(3) 造血細胞移植後等の予防接種再接種費用助成について（資料1 P33）

本市では、令和4年度から、小児がん治療のための造血細胞移植等により、予防接種法に基づく各種予防接種による抗体を消失した者が再接種する場合の費用の助成を開始することとした。対象

者は、再接種を行う時点で 20 歳未満の広島市民で、造血細胞移植または抗がん剤治療を受け、既に接種済みの定期予防接種について再接種が必要であると医師に判断された者である。

準備が整い次第、運用を開始するとともに、広報紙やホームページ等により市民に周知を行っていく。

(委員意見)

- ・ 関係者への周知を適切に行うとともに、運用を開始できるよう速やかに準備を進めてほしい

2 3月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和4年3月分	令和4年4月分
		報告日 3/7~4/3	報告日 4/4~4/13 現在
2類	結核	12人 (結核6人、潜在性結核6人)	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		1人(4/11)
	急性脳炎	1人(3/24)	
	後天性免疫不全症候群	1人(3/10)	
	水痘(入院例に限る)	1人(3/18)	
	梅毒	18人(3/7、3/8(3人)、3/9、3/10、3/11、3/14(2人)、3/17(2人)、3/18(2人)、3/24(2人)、3/25、3/28、3/30)	9人(4/4、4/6、4/8、4/11(5人)、4/12)
	破傷風	1人(3/28)	
新型インフル	新型コロナウイルス感染症	10,070人	4,640人

()は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和4年5月16日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：3月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、3月は459人で、前月比0.91とほぼ横ばいであった。

突発性発しんは大きく増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、手足口病はやや減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症は、第8週以降高止まりが続いていたが、第12週から増加傾向に転じた。年代別の新規感染者数は、第10週、第11週は10歳未満、第12週、第13週は10歳代が多かった。第14週は10歳代はやや減少し、20歳代から40歳代が多くなっている（図1）。

新規感染者数は全国的に横ばいから増加傾向で、新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード（厚生労働省）によると、現在の増加は接触機会の増加とBA.2系統への置き換わりが影響していると考えられている。国立感染症研究所が行う民間検査機関の検体（全国400検体/週）に基づくゲノムサーベイランスでは、第11週はBA.2系統が32%を占めており、第17週（5月2日～8日）には93%に達すると推定されている。

年度替わりは、人の移動や研修、会食などが多く感染リスクが高まりやすい。また、ゴールデンウィークは人の動きが活発になるため注意が必要である。マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密、換気などの基本的な対策に加えて、出勤者の削減、ワクチン接種、体調不良時は登校や出勤を控えて受診するなど感染防止対策の徹底が重要である。

- 梅毒の今年の累計報告数は4月10日時点で58件（過去5年の同時期平均は19件）となり、多い状況が続いている（図2）。梅毒は治療せずに放置すると、時に無症状になりながら進行し、長期間の経過で脳や心臓などに重大な病変を起こすことがある。感染が疑われる場合は早期に医療機関を受診し、パートナーなど周囲で感染の可能性がある人も検査を受け、治療を行うことが大切である。

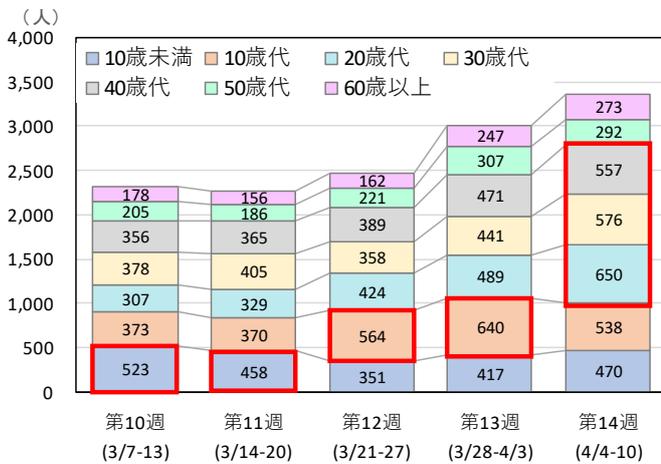


図1 新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移（広島市）

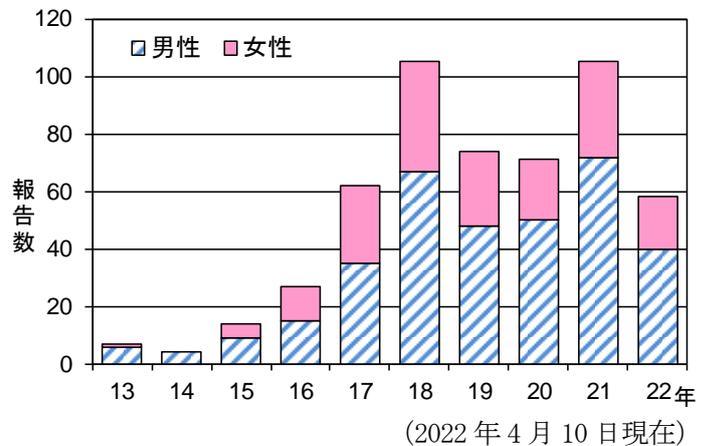


図2 梅毒の年間報告数の推移（広島市）

(3) 3月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
 - 2類感染症：結核12件（患者:6件、潜在性結核:6件）
 - 3類感染症：なし
 - 4類感染症：なし
 - 5類感染症：急性脳炎 1件、後天性免疫不全症候群 1件、水痘（入院例に限る） 1件、梅毒 18件、破傷風 1件
- 新型コロナウイルス感染症：新型コロナウイルス感染症 10,070件

(4) 今後の流行予測

梅毒・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。
 新型コロナウイルス感染症・・・【流行中】発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

3月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
インフルエンザ	*1 コクサッキーウイルス A6 型 *1 ライノウイルス	2021 年 10 月	1 人
感染性胃腸炎	アデノウイルス 31 型	2021 年 12 月	1 人
手足口病	コクサッキーウイルス A16 型 コクサッキーウイルス A6 型	2021 年 10 月 2021 年 12 月	1 人 1 人
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A4 型	2021 年 9 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 37 型	2021 年 10 月	2 人
その他の発疹性疾患（発疹症）	*2 サイトメガロウイルス *2 ヒトヘルペスウイルス 6 型	2022 年 1 月	1 人
その他の疾患（熱性痙攣）	RS ウイルス	2022 年 1 月	1 人
その他の疾患（川崎病）	アデノウイルス 2 型	2022 年 1 月	1 人

*1～2：複数病原体検出例

10 人の患者から 10 種類のウイルス 12 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、コクサッキーウイルス A6 型及びアデノウイルス 37 型各 2 株、ライノウイルス、アデノウイルス 2 型、同 31 型、コクサッキーウイルス A4 型、同 A16 型、サイトメガロウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6 型及び RS ウイルス各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和4年3月解析分)

1. 週報対象(第10週～第13週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		-	-		10	流行性耳下腺炎		3	0.12	
2	咽頭結膜熱		8	0.34		11	RSウイルス感染症		8	0.33	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	19	0.81		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎	↘	333	14.07		13	流行性角結膜炎		4	0.51	
5	水痘		7	0.29		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病	↘	23	0.97		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		1	0.04		16	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	突発性発しん	↑	27	1.15		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		8	0.35		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.14	

2. 月報対象(3月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↗	47	5.22
2	性器ヘルペスウイルス感染症		13	1.44
3	尖圭コンジローマ		11	1.22
4	淋菌感染症	↘	16	1.78
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↘	17	2.43
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	↘	↗
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	→	

予測記号

流行始まり	⊙↗
流行中	⊙→
流行終息傾向	⊙↘
終息	⊙

全数把握感染症報告数(令和4年3月分)

第10週～第13週(3月7日～4月3日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国		
		報告数	累積	報告数	累積	
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-	
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	
	3 痘そう	-	-	-	-	
	4 南米出血熱	-	-	-	-	
	5 ベスト	-	-	-	-	
	6 マールブルグ病	-	-	-	-	
	7 ラッサ熱	-	-	-	-	
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-	
	9 結核	12	28	1,073	3,208	
	10 ジフテリア	-	-	-	-	
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-	
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	
14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-		
三類	15 コレラ	-	-	-	-	
	16 細菌性赤痢	-	-	1	9	
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	-	60	185	
	18 腸チフス	-	-	-	-	
	19 パラチフス	-	-	-	-	
四類	20 E型肝炎	-	-	37	108	
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-	
	22 A型肝炎	-	-	5	18	
	23 エキノコックス症	-	-	2	3	
	24 黄熱	-	-	-	-	
	25 オウム病	-	-	2	2	
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-	
	27 回帰熱	-	-	-	2	
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-	
	29 Q熱	-	-	-	-	
	30 狂犬病	-	-	-	-	
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	-	
	32 サル痘	-	-	-	-	
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-	
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	4	8	
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-	
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	
	38 炭疽	-	-	-	-	
	39 チクングニア熱	-	-	-	-	
	40 つつが虫病	-	-	3	44	
	41 デング熱	-	-	3	3	
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-	
	44 ニバウウイルス感染症	-	-	-	-	
	45 日本紅斑熱	-	-	1	5	
	46 日本脳炎	-	-	-	1	
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	
	48 Bウイルス病	-	-	-	-	
	49 鼻疽	-	-	-	-	
	50 プルセラ症	-	-	-	-	
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	
	53 発しんチフス	-	-	-	-	
	54 ポツリヌス症	-	-	-	1	
	55 マラリア	-	-	2	2	
	56 野兎病	-	-	-	-	
	57 ライム病	-	-	-	2	
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
	60 類鼻疽	-	-	-	-	
	61 レジオネラ症	-	5	83	261	
	62 レプトスピラ症	-	-	1	1	
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
	五類	64 アメーバ赤痢	-	-	41	116
		65 ウイルス性肝炎	-	-	15	45
		66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	2	122	342
		67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	1	3
		68 急性脳炎	1	2	15	58
		69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	-
		70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	12	47
		71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	59	190
		72 後天性免疫不全症候群	1	2	59	202
		73 ジアルジア症	-	-	4	8
		74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	11	43
		75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	1
		76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	-	85	276
		77 水痘(入院例に限る。)	1	3	20	61
		78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
		79 梅毒	18	55	810	2,397
		80 播種性クリプトコックス症	-	-	13	38
		81 破傷風	1	3	5	13
		82 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
83 パンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	4	11	36	
84 百日咳		-	3	45	146	
85 風しん		-	-	-	-	
86 麻しん		-	-	-	1	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-	1	
88 新型コロナウイルス感染症 ※		10,070	54,182	1,306,022	6,687,704	

※全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)。広島市、全国の累積は2020年からの合計。